

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第 1 号

病 害 虫 名 トルコギキョウえそ輪紋病
病原ウイルス アイリス黄斑ウイルス
(*Iris yellow spot virus* : I Y S V)
作 物 名 トルコギキョウ
発 生 地 域 丹波地域の一部

1 発生確認の経過

平成 28 年 6 月、施設栽培のトルコギキョウで、葉にえそ斑点が生じる症状を確認した。京都府農林水産技術センター農林センターにおいて R T - P C R 法によるウイルス検定を行った結果、上記の症状を示す葉から *Iris yellow spot virus* (I Y S V) が検出され、本府のトルコギキョウでは、これまで未発生のトルコギキョウえそ輪紋病であることが判明した。本ウイルスによる病害は、本府では平成 26 年にネギにおいてネギえそ条斑病の発生を確認し、現在では府南部地域を中心に広く発生を確認している。また、現在までに 33 都府県でタマネギ、ネギ、ニラ、トルコギキョウ、アルストロメリア等で発生が報告されている。

2 病徴

株の中位～上位葉に黄化やえそ斑点を生じたり、茎にえそ条斑を生じる。特に、収穫間際になってから上位葉が黄化し、細かいえそ斑点を生じ、「かつくん症」と呼ばれる花茎の急激な曲がりへと進行する。ただし、病徴は品種や生育段階によって異なるので注意が必要である。

3 感染植物

ユリ科をはじめ 18 科 40 種以上の植物で感染が報告されている (表 1)。

表1 IYSVの感染が報告されている主な植物

| 科名 | 植物名 |
|-----------|---|
| ユリ科 | ネギ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ、ニンニク、テッポウユリ |
| リンドウ科 | トルコギキョウ |
| アルストロメリア科 | アルストロメリア |
| アヤメ科 | ダッチアイリス |
| ヒガンバナ科 | アマリリス、スイセン |
| アブラナ科 | ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー、ミズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウ、タネツケバナ、ナズナ |
| セリ科 | ニンジン |
| カタバミ科 | カタバミ |
| キク科 | チチコグサモドキ、ノボロギク |
| ゴマノハグサ科 | オオイヌノフグリ、トキワハゼ |
| シソ科 | ホトケノザ |
| スベリヒユ科 | スベリヒユ |
| スミレ科 | パンジー |
| ナデシコ科 | コハコベ、オランダミミナグサ、ミノフスマ |

※ 大半の植物は、植物防疫 第67巻第12号(2013年)「静岡県におけるトルコギキョウとネギ属作物のウイルス黄斑ウイルスによる被害実態と防除対策の現状」より引用抜粋

4 伝染方法

本病原ウイルスはトスポウイルス属に属し、ネギアザミウマによって媒介される。ネギアザミウマは、幼虫時に IYSV に感染した植物を吸汁することにより本ウイルスを獲得し、永続的にウイルスを伝搬するが、経卵伝染はしない。感染したトルコギキョウでの種子伝染や、栽培土壌での土壌伝染は認められない。また、管理作業等による汁液（接触）伝染の可能性は低いとされている。

ネギアザミウマ

ネギ、ニラ、タマネギ等のユリ科植物の害虫として問題となるほか、ウリ科、ナス科、マメ科等広範な植物で寄生が確認されている。体長は 1.1 ～ 1.6mm 程度、体色は黄色～褐色で、一般に夏季は淡色、冬季は暗色の個体が多い。ネギ等の栽培植物やノビル等の雑草において成幼虫で越冬し、主に 3 月から初冬まで活動する。発生の最盛期は 6 月～ 9 月で、この期間が高温少雨で推移すると多発生となる。

5 防除対策

- (1) 施設開口部に 1.0mm から 0.4mm 目合いの防虫ネットを設置し、ネギアザミウマの侵入を防ぐ。

- (2) ネギアザミウマの増殖源となる施設内外の雑草の除去など衛生管理に努める。
- (3) 薬剤散布に当たっては、登録内容を十分に確認する。ネギアザミウマに対して感受性が低下した薬剤が認められているので、薬剤散布後は効果を十分に確認し、感受性低下が疑われる場合はIRACコードの異なる薬剤(表2、3)を散布する。また、感受性の低下を避けるため、IRACコードの異なる薬剤を散布する。
- (4) 発病した株は伝染源となるので、早期発見に努める。発見した場合は、直ちに抜き取り、施設外に持ち出したり、土中に埋めるかビニール袋に入れて処分するなど施設内や周辺に放置しないようにする。
- (5) 収穫終了後は施設を密閉して、ネギアザミウマの死滅を図り、ウイルスを保有した虫の施設外への拡散を防ぐ。



写真1 発病株(葉の黄化、えそ斑点)



写真2 えそ斑点



写真3 えそ斑点(拡大)



写真4 花茎の曲がり

(写真提供：京都府南丹農業改良普及センター)

表2 「花き類・観葉植物」でアザミウマ類に登録のある主な薬剤

| IRAC コード | 薬 剤 名 | 希釈倍率・使用量 (kg/10a) | 使用時期 | 使用回数 | 使用方法 | 総使用回数 |
|-------------|------------|----------------------|------|------|------|-------|
| 1A | オンコル粒剤5 | 6kg | 生育期 | 3回以内 | 株元散布 | 4回以内 |
| 1B | スミチオン乳剤 | 1,000倍 | — | 6回以内 | 散布 | 6回以内 |
| | オルトラン粒剤 | 3~6kg | 発生初期 | 5回以内 | 株元散布 | 5回以内 |
| | オルトラン水和剤 | 1,000~1,500倍 | 発生初期 | | 散布 | |
| 4A | モスピラン顆粒水溶剤 | 2,000倍 | 発生初期 | 5回以内 | 散布 | 5回以内 |
| 5 | ディアナSC | 2,500~5,000倍 | 発生初期 | 2回以内 | 散布 | 2回以内 |
| 15 | カウンター乳剤 | 2,000倍 | 発生初期 | 5回以内 | 散布 | 5回以内 |
| 21A | ハチハチフロアブル | 1,000倍 | 発生初期 | 4回以内 | 散布 | 4回以内 |

表3 「トルコギキョウ」でアザミウマ類に登録のある主な薬剤

| IRAC コード | 薬 剤 名 | 希釈倍率・使用量 (kg/10a) | 使用時期 | 使用回数 | 使用方法 | 総使用回数 |
|-------------|------------|--------------------------|------|------|------|-------|
| 1B | ジェイエース粒剤 | 1~2g/株 (但し、9Kg/10aまで) | 発生初期 | 5回以内 | 株元散布 | 5回以内 |
| 3A | スカウトフロアブル | 2,000倍 | — | 5回以内 | 散布 | 5回以内 |
| | マブリック水和剤20 | 4,000倍 | 発生初期 | 2回以内 | 散布 | 2回以内 |

※ オルトラン粒剤・水和剤とジェイエース粒剤は同一成分であるため、これらの剤を使用する場合は総使用回数を超えないように注意する。

※ IRACコード(殺虫剤コード)

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

※ 各薬剤の登録内容は平成28年6月29日現在のものである。

農業の使用に当たっては、最新の使用方法や注意事項等を必ず確認すること。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、有効成分の総使用回数についても注意すること。